

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 5 月 13 日現在

機関番号：32644

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370855

研究課題名(和文)ハンガリー・ジャコバン主義における共和政思想の転換とその展開に関する研究

研究課題名(英文)A study of the conversion and development of Hungarian Jacobin republicanism

## 研究代表者

中澤 達哉 (Nakazawa, Tatsuya)

東海大学・文学部・准教授

研究者番号：60350378

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、ハンガリー・ジャコバン主義が「王のいる共和政」思想から「王のいない共和政」思想へと転換する過程を解明した。つまりジャコバン主義者は、1793年夏にヨーゼフ主義の伝統に基づく「世襲王政の共和国」論がフランツ2世に拒否された結果、「王のいる共和政」論に深く失望した。同じ頃、フランスで急進的な人民主権を唱える1793年憲法が成立したほか、同年12月のトゥーロンの戦いでフランス共和派革命軍がナポレオンの活躍によって王党派に勝利した。こうした内外の形勢の変化を踏まえ、ハンガリー・ジャコバン主義者は1794年5月、フランス型の「王のいない共和政」論へと歩を進め急進化していくことになった。

研究成果の概要(英文)：This study clarifies the process of the conversion from the idea of 'republic with king' to 'republic without king' in Hungarian Jacobinism during 1793-94. In August of 1793, the Hungarian Jacobins were deeply disappointed with King Francis II's rejection of their proposal of a 'republic with hereditary king', which was based on the enlightened tradition of Josephism. However, in June of 1793, the revolutionary French Constitution was established. In addition, in December of that year, French royalists and their powerful international allies were defeated in the Siege of Toulon by the young Napoleon's military strategy. On the basis of such external, as well as internal, changes in the situation, the Hungarian Jacobins finally turned to embrace the more radical French Jacobin idea of a 'republic without king' in May 1794.

研究分野：スロヴァキア・ハンガリー史

キーワード：ハンガリー スロヴァキア ジャコバン主義 共和政 政治思想史 国際情報交換

### 1. 研究開始当初の背景

特権諸身分が君主との間で国家権力を分有するような、中世後期ハンガリー王国における合意型の身分制的君主政は、ポーランドなどの他の東中欧諸国と同様、しばしば「共和政」と呼ばれる。この共和主義は、いわゆる近代の「王のいない共和政」と異なり、「王のいる共和政」に他ならなかった。この思想はフランス革命の余波のもとで大きな変質を被ることになる。

旧ハンガリー王国の後継国家の歴史研究、例えばマジャール史学の Benda Kálmán, *A magyar jakobinusok iratai, Vol.I-III* (Akadémiai Kiadó, Budapest, 1952-57); Benda Kálmán and Elek Judit (ed.), *Vizsgálat Martinovics Ignác szászvári apát és társai ügyében* (Magvető Könyvkiadó, Budapest, 1983)、スロヴァキア史学の Štefan Kató, 'Jakobínske hnutie v Uhorsku', in Milan Pišút (ed.), *Kapitoly z uhorských dejín* (Veda, Bratislava, 1952); Ján Šimončíč, *Ohlasy Francúzskej revolúcie na Slovensku* (Východoslovenské vydavateľstvo, Košice, 1982)、クロアチア史学の Vaso Bogdanov, *Jakobinska zavjera Ignjata Martinovića* (Novinarsko izdavačko poduzecé, Zagreb, 1960)などは、後期ジャコバン主義思想(1793-95年)の理論的發展の最終段階にあたる「王のいない共和政」論、すなわち、各民族自治に基づく「ハンガリー連邦共和国」構想を根拠に、後期の思想を民族史観の上に立つ国民史の叙述のなかで高く評価した。この結果、とりわけ前期ジャコバン主義(1792-93年)の「王のいる共和政」論は社会主義期から現在までの時期を通してほぼ等閑視されてきたといえる。

これに対して中澤はこれまでに、平成23-24年度科学研究費補助金・若手研究(B)「ハンガリーにおける初期ジャコバン主義の生成と展開に関する研究」を通じて、以下のように「王のいる共和政」論の諸相を明らかにした。前期ジャコバン主義は、世襲君主の強権により啓蒙改革を断行するという近世ハプスブルク朝のヨーゼフ主義の土壤に、イギリスの制限君主制およびフランス・ジャコバン主義の共和思想が融合するかたちで出現した。これは、「選挙王政の共和国」を実現していた中世ハンガリー王国のいわゆる共和主義的伝統を尊重しつつも、ハプスブルク朝による封建制および身分制の緩和ないしは撤廃をめざす啓蒙改革を補強するために、「世襲王政の共和国」論を構築するに至ったのである。

つまり中澤は、従来の近代ヨーロッパ共和政史研究に対して、「王のいる共和政」論という新たな範疇の存在を提起するとともに、それには「選挙王政の共和国」と「世襲王政の共和国」という二つの政体・国家思想が存在したことを明らかにしていたのである。

### 2. 研究の目的

これに対して本研究は、以上の若手研究Bの成果を踏まえ、これをさらに発展させることにした。とりわけ、1790年代のハンガリー・ジャコバン主義における共和政思想の特性を、前期(1792-93年)の「王のいる共和政」論から後期(1793-95年)の「王のいない共和政」論への転換およびその終結までの展開に焦点をあてつつ、縦軸としては中世ハンガリーの共和主義的伝統と啓蒙絶対主義期のヨーゼフ主義、横軸としてはフランス・ジャコバン主義のほか、ヨーロッパにおけるジャコバン・ネットワークの機能を重視しながら総合的に解明することを目的とした。

これによって、ヨーロッパのジャコバン主義の多様性を確認しつつ、「王のいる共和政」と「王のいない共和政」の共存という近代ヨーロッパ共和主義における新たな側面の通時的・動態的把握を可能とし、ヨーロッパの共和政史研究に総合的な分析枠を提示することを目的とした。

本来ジャコバン主義はヨーロッパ各地に広範に拡大した多様性を特色とする思潮であるにもかかわらず、フランス・ジャコバン研究には豊かな蓄積があるものの、それ以外の地域のジャコバン主義については、ドイツやイギリスを例外として(Hellmut G. Haasis, *Morgenröte der Republik: Die linksrheinischen deutschen Demokraten 1789 - 1849* (Ullstein-Verlag, Frankfurt-Berlin-Wien, 1984); Gregory Claeys (ed.), *Politics of English Jacobinism: Writings of John Thelwall* (Pennsylvania State University Press, University Park, PA., 1995)、必ずしも十分に研究が進展しているわけではない。ましてや、東中欧地域のジャコバン主義については、現地の歴史学においてすら国民史の制約のため検証が不十分であり、更なる研究の深化が待たれる状況である。冷戦終結後の旧東欧諸国では、文書館史料の閲覧に以前のような制限がなくなったこともあり、現在、当該地域の歴史研究は世界的に急速に発展している。日本の東欧史研究も、現地の研究に貢献しうる環境が生まれているのである。本研究が、日本の西洋史研究のみならず、東中欧の歴史学界にも貢献することをも主たる目的の一つに掲げたのは言うまでもない。

### 3. 研究の方法

ハンガリー・ジャコバン主義の前期(王のいる共和政)から後期(王のいない共和政)への転換を起点に、その終結までの展開を、前期の特性を踏まえつつ総合的に検証する方法をとった。

3年の研究期間をかけて以上の目的を果たすため、研究初年度にあたる平成25年度においては、方法論的な分析枠の構築、個別の実証研究を進めるための史料収集と分析、という2つの作業を行った。

上記は特に以下の3点に取り組んだ。A) ハンガリー王国の後継国家におけるハンガリー・ジャコバン主義に関する最新の先行研究の整理と批判的検討(特にマジャール史学、スロヴァキア史学、クロアチア史学)。B)他のヨーロッパ地域(特にフランス、イングランド、オーストリア)におけるジャコバン主義およびジャコバン・ネットワークに関する研究文献の整理と批判的検討。C)急進的ジャコバン主義全般に関する理論的研究の整理と批判的検討、である。

平成26年度は主に、上記に特化した研究を行った。研究最終年度の平成27年度においては、本研究の成果を公表する準備を進めた。また、前年度までに収集した史料に不足のある場合、史料を補完した上で、その分析にあたった。

なお、史料の解読にあたっては、ハンガリー共和国・中央ヨーロッパ大学歴史学部准教授バラージュ・トレンチャーニ博士、スロヴァキア共和国・スロヴァキア科学アカデミー歴史学研究所主任研究員エヴァ・コヴァルスカ博士、イギリス・オックスフォード大学歴史学部欽定講座名誉教授ロバート・エヴァンズ博士と研究打合わせを行い助言をいただくことで、解読の正確性と客観性の確保に努めた。

#### 4. 研究成果

オーストリア共和国 Haus-, Hof-, und Staatsarchiv 所蔵の Vertrauliche Akten 48-1 Correspondentiae Heinocianae 1774-1794: Nr. 5, Nr. 7, folio 1-225, Nr. 8-20, folio 1-287, Nr. 21-26, 28, 30, 31, 33-39, 41, folio 1-40. Verzeichnis aller Nummern bei Nr. 7, folio 223-224., 1774-1794 (Akt (Sammelakt, Grundztl., Konvolut, Dossier, File) およびハンガリー国立文書館フォント R311 等のジャコバン主義史料群を検証した結果、ハンガリー・ジャコバン主義が「王のいる共和政」思想から「王のいない共和政」思想へと転換する以下の過程を解明することができた。

つまり、マルチノヴィッチらのハンガリー・ジャコバン主義者は、1793年夏にヨーゼフ主義の伝統に基づく自らの「世襲王政の共和国」論が国王フランツ2世に拒否された結果、「王のいる共和政」論に深く失望していたのである。ちょうど同じ頃、フランスで急進的な人民主権を唱える1793年憲法が成立したほか、同年12月のトゥーロンの戦いでフランス共和派革命軍がナポレオンの活躍によって王党派および各国の反仏連合軍に勝利した。こうした内外の形勢の変化を踏まえ、ハンガリー・ジャコバン主義者は1794年5月、フランス型の「王のいない共和政」論へと歩を進め急進化していくことになったのである。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2 件)

中澤達哉、ネイション・ナショナリズム研究の今後、現代史研究、査読有、No.59、2013、pp.37-53.

中澤達哉、東欧におけるハプスブルク帝国の政治文化、歴史と地理：世界史の研究、査読無、2014年8月号、2014、pp.40-44.

〔学会発表〕(計 2 件)

中澤達哉、ハプスブルク帝国の社団国家編成と近代国民の形成—マリア・テレジア期とヨーゼフ2世期を中心に、福井県高等学校社会科研究会・世界史授業研究会、2013年11月.

中澤達哉、コメント：「共和政の祖国」を参照軸とする「祖国」の歴史的輻輳、第64回日本西洋史学会シンポジウム(テーマ：辺境地域における愛国主義とナショナリズム)、2014年6月.

〔図書〕(計 2 件)

中澤達哉、ミネルヴァ書房、1848年革命、南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵責任編集『新しく学ぶ西洋の歴史 アジアから考える』2016、pp.129-130.

中澤達哉、ハンガリー・ジャコバン主義における共和政思想の転換とその展開、森原隆編『ヨーロッパ史における統合の再検討』(2017年出版予定).

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://nakazawa-fukui.com/>  
(2016年6月末日有効予定)

6 . 研究組織

(1)研究代表者

中澤達哉 ( NAKAZAWA, Tatsuya )

東海大学・文学部・准教授

研究者番号：60350378

(2)研究分担者 なし

( )

研究者番号：

(3)連携研究者 なし

( )

研究者番号：